

スクールポリシー 令和7年度評価

<p>グラデュエーション・ポリシー： 「社会に貢献できる基礎基本を身につける」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての基礎学力 ・社会人としての基礎基本:挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓 ・責任ある大人として、自分で考え、判断し、行動する力 ・グローバル社会の中で、多様性を尊重し、対話を通して他者と協働する力 	<p style="text-align: center;">アンケート</p> <p style="text-align: center;">1=あてはまらない、2=あまりあてはまらない 3=どちらでもない、4=ややあてはまる、5=あてはまる</p>						
<p>カリキュラム・ポリシー： 「成功体験の積み重ねを通して自主的な学びへと向かう」～ 小さな「できた」を大きな「やれる」へ～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を定着させるために繰り返し取り組む ・学びの質を高めるためのICT機器の活用 ・グループワーク、ペアワークなどの協働を通して、異なる意見に耳を傾ける ・自分の意見を持ち、発表活動へと発展させる 							
<p>アドミッション・ポリシー： 「かなえたい夢のある生徒」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して努力する意欲のある生徒 ・自分を大切に、他者も尊重できる生徒 ・ひとつ上の自分を目指してチャレンジする意欲のある生徒 							
<p>グラデュエーション・ポリシー：「社会に貢献できる基礎基本を身につける」</p>		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
<p>指標1教員:高校生としての基礎学力をつけられる取り組みを十分行った(GP) 指標1生・保:高校生としての基礎学力をつけることができた。</p>		3.5	3.5	3.7	3.3	3.4	3.5	3.8
<p>指標2:社会人としての基礎基本(挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓)を身に付けられる取り組みを十分行った(GP) 指標2:生徒・保:社会人としての基礎基本(挨拶、規範意識、時間厳守、整理整頓)を身に付けることができた。</p>		3.8	3.9	4.0	3.4	3.5	3.4	3.8
<p>指標3教員:責任ある大人として、自分で考え、判断し、行動する力を付けられる取り組みを十分行った(GP) 指標3生・保:責任ある大人になるために、自分で考え、判断し、行動する力をつけることができた。</p>		3.8	3.8	4.0	3.3	3.5	3.7	3.8
<p>指標4:多様性を尊重し、対話を通して他者と協働する取り組みを十分行えた(GP) 指標4:(生徒・保護者)多様性を尊重し、対話を通して他者と協働することができた。</p>		3.8	3.7	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8
<p>カリキュラム・ポリシー：「成功体験の積み重ねを通して自主的な学びへと向かう」～ 小さな「できた」を大きな「やれる」へ～</p>		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
<p>指標1:基礎基本を定着させるために繰り返し取り組めるよう、その手立てを十分行えた(CP) 指標1:生・保:基礎基本を定着させるために繰り返し取り組めるよう、その手立てがあった。</p>		3.4	3.3	3.7	2.9	2.9	3.1	3.8
<p>指標2教員:学びの質を高めるためのICT機器の活用について、その取り組みが十分行えた(CP) 指標2生・保:学びの質を高めるためにICT機器を活用することができた。</p>		3.6	3.6	3.9	3.2	3.3	3.3	3.8
<p>指標3教員:グループワーク、ペアワークなどの協働の学びを通して、異なる意見に耳を傾けられる活動を十分行えた(CP) 指標3生・保:グループワーク、ペアワークなどの協働の学びを通して、異なる意見に耳を傾けることができた。</p>		3.8	3.7	4.0	3.5	3.5	3.4	3.6
<p>指標4教員:生徒が自分の意見を持ち、発表活動へ発展できる活動を十分行えた(CP) 指標4生・保:自分の意見を持ち、発表することができた。</p>		3.6	3.4	3.7	3.3	3.4	3.4	3.5
<p>アドミッション・ポリシー：「かなえたい夢のある生徒」</p>		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
<p>指標1:「かなえたい夢のある生徒」が入学している(AP) 指標1:生・保:本校のアドミッションポリシーを知っている</p>		18.7%	19.1%	40.5%	26.1%	31.8%	45.5%	2.7
<p>指標2教員:継続して努力する意欲のある生徒が入学している(AP) 指標2生・保:私は継続して努力する意欲のある生徒である</p>		3.3	3.2	3.6	3.4	3.3	3.5	2.6
<p>指標3教員:自分を大切に、他者も尊重できる生徒が入学している(AP) 指標3生・保:私は自分を大切に、他者も尊重できる生徒である</p>		3.7	3.6	3.9	3.9	3.9	3.9	2.9
<p>指標4教員:私はひとつ上の自分を目指してチャレンジする意欲のある生徒である(AP) 指標4生・保:私はひとつ上の自分を目指してチャレンジする意欲のある生徒である</p>		3.4	3.4	3.7	3.4	3.2	3.6	2.8

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 1年生(52回生)

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
1年生	目標1:学習習慣の確立と学習環境の充実	3.3	/	/	3	/	/	3.5
	指標1:進路目標を持ち、モーニングテスト・朝学や授業を大切に、学習習慣を身に付けることができた							
	目標2:ルールを守ろうとする態度を養い、社会に参画する態度を身に付ける	3.6	/	/	3.4	/	/	3.4
	指標2:規則を守り、目標と向上心を持って取り組めた。							
	目標3:他者を思いやりと共に自分を大切に、豊かな人間関係を築くための素地を養う	4.0	/	/	4.4	/	/	3.3
	指標3:無断遅刻や無断欠席をしないよう行動できた							
指標4:他者を大切に丁寧な学校生活を送ることができた。	3.9	/	/	4.0	/	/	3.4	
具体的取組		自己評価						
目標1	<p>(1)タブレットを活用した授業の展開や長期休業中や考査前の課題に取り組むにより、学習に対する習慣を向上させる。</p> <p>(2)進路学習を通して、自分の進路に対して早い段階から意識させ、具体的な職業について調べ、考え、発表する取り組みを行い、目的を達成するためのプロセスや努力する必要性を考え、実行させる。</p> <p>(3)授業を大切にするためにも対話型・グループワーク型の授業をできるだけ多く取り入れ、生徒たちが主体性をもって取り組めるように配慮する。</p>	<p>(1)Monoxer、すらら等のアプリを活用して文系科目では英単語、古語単語、百人一首、漢字から理科数学の問題を解く機会を増やし学習習慣の定着を行っており、学習に取り組む姿勢は向上している生徒が増加している。模試や定期考査で思うような結果に繋がっていないため、自己評価は低いと思われるが、タブレットを効果的に使用した授業が各科目で行われている。ロイロノートやクラスルームの使用により提出物の提出も徹底して行われているので今後成果に結びつくと思われる。</p> <p>(2)進路ガイダンスを毎学期、大学訪問を1学期に行っている成果が出ており、専門学校や大学への進学意識を構築することに繋がっている。具体的な将来の仕事についてイメージを持ち、今やるべきことを運動して考察できる生徒は少数であるのが今後の進路学習の課題であると思われる。</p> <p>(3)各教科活動でグループワークが行われており、授業の中では生徒は主体的に教科活動を行っている。インシアチブをとれる生徒も育っており、継続的に行うことで定着できると考えられる。</p>						
目標2	<p>(1)無断欠席や校則等が守れていない生徒には、粘り強く生徒と対話し、問題点を指摘しそれが改善できるように共に歩む姿勢を大切に。その際、保護者とも協力し、無断遅刻・無断欠席0を目指す。</p> <p>(2)人の話を聞く姿勢を育み、相手を思いやる気持ちを態度に示せるよう、場に応じた言葉遣いや相手を尊重する態度を身に付けさせる。</p>	<p>(1)担任を中心に家庭連絡を丁寧かつ頻繁に行い、無断欠席や校則等が守れていない生徒とも粘り強く生徒と対話し、問題点を指摘しそれが改善できるように共に歩む姿勢を大切にしている。保護者の協力も得られ、無断遅刻・無断欠席0ではないものの目標に確実に一歩近づいている状況が現在である。</p> <p>(2)人の話を聞く姿勢を育み、相手を思いやる気持ちを態度に示せるよう、場に応じた言葉遣いや相手を尊重する態度の生徒が育っている一方で、幼さを魅力と感じている生徒もいるので継続して指導する必要がある。</p>						
目標3	<p>(1)いじめに対しては絶対にしてはいけないものとして毅然とした態度で指導し、いじめ件数0を目指す</p> <p>(2)人の話を聞く姿勢や相手を思いやる発言を大切にできるように普段の関わりの中で、良識ある言葉遣いや相手を敬う態度を身に付けさせる。</p>	<p>(1)LHRや人権HR、講演会、心のサポートの講義、他者を理解する内容の講義等で予防的な指導を行ってきた。特定の人間関係の中でごく一部の生徒ではあるが1,2学期に反社会的行為を行っているので、繰り返し学年全体で善悪の基準を認識できるように指導していく必要を感じている。</p> <p>(2)近隣住民からの自転車マナーの苦情が増加しているため、人の目の届かないところでも正しい行動がとれるように育てていく必要性が高まっている。そのためには日頃から、言葉遣いや挨拶についても目や耳に入るたびに言い直しをさせて正しい行動を身に付けさせるべく指導を根気強く行っていくことが求められている。</p>						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 2年生(51回生)

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
2年生	目標1:学習習慣の確立と学習環境の充実	/	3.4	/	/	3.4	/	3.3
	指標1:授業を大切に、学習習慣を身に付けることができた							
	目標2:ルールを守ろうとする態度を養い、社会に参画する態度を身に付ける	/	3.6	/	/	3.7	/	3.3
	指標2:規則を守り、目標と向上心を持って取り組めた。							
	目標3:他者を思いやりと共に自分を大切に、豊かな人間関係を築くための素地を養う	/	3.9	/	/	4.4	/	3.2
	指標3:無断遅刻や無断欠席をしないよう行動できた							
指標4:他者を大切に丁寧な学校生活を送ることができた。	/	3.7	/	/	4.1	/	3.4	
具体的取組		自己評価						
目標1	(1)タブレットを活用した授業の展開や長期休業中や考査前の課題に取り組むにより、学習に対する習慣を向上させる。 (2)進路学習を通して、自分の進路に対して早い段階から意識させ、就職を見据えた学問分野や進学先についての探究活動を個に応じた内容で、目的を達成するためのプロセスや努力する必要性を考え、実行させる。 (3)授業を大切にするためにも対話型・グループワーク型の授業をできるだけ多く取り入れ、生徒たちが主体性をもって取り組めるように配慮する。	(1) タブレットを活用し、英数国の基礎内容を長期休業中や考査前の課題として取り組むことができていた。 (2) 総合探究では、SDGsからのテーマを選択し、調査研究を行った。講座別プレゼンテーションを経て、優秀班は1・2年生の前で全体発表を行う。興味の幅が広がり、進路を意識しながら調査研究発表を行うことが出来た。また、進路講演会やその他進路行事を通して、進路先を決定するとともに、進路実現のための学習計画を立て、自分の人生設計を見つめ、集団としての意識を向上させ行動に移ることが出来た。 (3) ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションを主体的に行える生徒の育成に取り組めた。						
目標2	(1)無断欠席や校則等が守れていない生徒には、粘り強く生徒と対話し、問題点を指摘しそれが改善できるように共に歩む姿勢を大切に。その際、保護者とも協力し、無断遅刻・無断欠席0を目指す。 (2)人の話を聞く姿勢を育み、相手を思いやる気持ちを態度に示せるよう、場に応じた言葉遣いや相手を尊重する態度を身に付けさせる。	(1) 保護者会や学年通信を通じて保護者へ協力を呼びかけ、無断欠席や安易に欠席しないように基本的な生活習慣の確立を心掛けたが目標の達成には至っていない。生徒には年間を通じて学年集会やホームルーム、個人指導で遅刻欠席について説諭し、3学期は発熱・風邪・通院以外の遅刻欠席の数が減少した。自主性を重んじた充実した白銀合宿実施を目標に、生徒主体で学年集会も行い、規範意識を高めた。また、学年目標を体現するため、生徒と教員が丸となって取り組み、その成果が白銀合宿で十分見られた。 (2) 授業や集会を通じて話を聞く姿勢を育み、客観的に自分を見つめさせて、他人を思いやる気持ちを気付かせつつ、コミュニケーション力の向上の意識付けに到達できたので、来年度は行動できることを目標としたい。						
目標3	(1)いじめに対しては絶対にしてはいけないものとして毅然とした態度で指導し、いじめ件数0を目指す (2)人の話を聞く姿勢や相手を思いやる発言を大切にできるように普段の関わりの中で、良識ある言葉遣いや相手を敬う態度を身に付けさせる。	(1) いじめについて、学校生活全体を通じて丁寧に指導を続けている。修学旅行に関わる取組みの中で生徒からの人間関係の悩みに関して、関係生徒に寄り添い、悩みの解消に向けて担任を中心に取り組んだ。また、集団生活を通して、他者を思いやりと共に自分を大切に、豊かな人間関係を築くための取り組みを行った。 (2) 言葉遣いや挨拶についても目や耳に入るたびに言い直しをさせて正しい行動を身に付けさせるべく指導を根気強く行っている。近隣住民からの苦情は、減少している。また、近隣住民から感謝の連絡があった。						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 3年生(50回生)

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員				
3年生	目標1:個人及び社会がより良くなるよう様々なことに興味関心を持ち、主体的自立的学習者として課題に取り組んだ。	/	/	3.7	/	/	3.1	3.5				
	指標1:学習する意味を知ろうとした。探究を含む授業での個の活動、協働、家庭学習を通し、基礎学力を身に付けようとした。			3.8			3.6	2.5				
	目標2:社会的秩序を守り、自らの主体性を尊重しつつ他者の主体性も大切にできる姿勢を持つ。最上級生として後輩の道しるべとなる事が出来る。			3.8			3.8	3.3				
	指標2:嘘をつかず、自ら考えて行動し、他者を尊重しながら自分の考えを丁寧に説明し、学習・学校行事で全力で取り組む姿が見られた。			3.8			3.6	3.4				
	目標3:毎日の学習と社会とのつながりを意識し、社会をより良くするための自らの役割について考え、自らの進路を獲得しようとする。			具体的取組								
	指標3:社会の課題に気づき、学び、自らの役割について考え、自らの進路に向けて情報を集め、相談し、学び、考え、進路を決めることが出来た。											
	指標4:自分たちが大切にされていると感じ、人を大切にすることが出来た。One Team 50, One Team 東の一員として安心して通うことが出来た。											
目標1	(1)集会やHRにおいて変化の激しい現代における「学ぶ意義」「向上しようとする姿勢を持つ意義」を伝える。 (2)総合探究やHRを通して社会にある課題に目を向け、探究活動を行い論文にまとめる。(将来の研究テーマに発展していけるとなお良い。) (3)毎日の授業や小テスト、定期テストに向けた取り組みを充実させ、自ら基礎学力を培うよう促す。静かな学習が基盤にあることを意識させる。	(1)集会などでいろいろな先生から話をしてもらい伝えることができた。 (2)総合探究やHRで、1学期からそれぞれの分野に分かれて探究活動を行い論文を作成することができた。この論文の作成を大学受験に生かしたのももいた。 (3)朝のSHRの時間に朝の小テストを行ったり、小テストがない日は静かに各自で学習して自ら基礎学力を培うことができた。										
目標2	(1)学年目標を再確認する。 「当たり前」を「当たり前」に「嘘をつかない」「自ら考えて行動する」「全力投球」「愛される人になる」 (2)生徒との対話、生徒同士の対話の機会を多く持ち、集団で協働して作り上げる経験を重ねる。 (3)「できた」を重ね、ほめ、励まし、喜びを共有する声掛けをする。	(1)様々な場面で何度も学年目標を使って話し、生徒も教員も意識して行動することができた。 (2)普段のHR活動や行事を通して生徒と対話をしたり、生徒同士で話し合う場面を増やしていった。文化祭などではなるべく生徒たちだけで取り組ませることができた。 (3)学校行事に取り組んだり、普段の学校生活、授業や受験に向けての学習を頑張っている生徒に声掛けをすることができた。										
目標3	(1)探究や集会、LHRでの講演や調べ学習の中で、社会における課題を知り、理解を深める。 (2)総合探究と進路を緊密に連動させ、自己実現と社会貢献の両方の側面から自らの進路について考える支援をする。 (3)保護者や担任等に自らの目標や夢について自信と説得力を持って語る機会を設ける。	(1)探究や集会、LHRでの講演や調べ学習を通じて、自分にとってどの様に関わるのか考えさせることができた。 (2)総合探究で論文を作る際に自分の進路に関わる内容の論文を作成させた。それによって自分の進路についての考えを深めることができた。 (3)夏の三者面談で自分の進路について保護者や担任について話をさせた。中にはスライドを用意して説明するものもいて自分の進路を保護者や担任に説明できた。										

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 総務部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
総務部	目標1:開かれた学校づくりと適切な情報発信	3.5	3.4	3.5	3.1	3.6	3.5	4.0
	指標1:オープン・ハイスクールや公開授業、学校からのお知らせ等を通じて宝塚東高校の取り組みや活動等、学校への理解が深まった							
	目標2:防災教育の充実	3.6	3.6	3.8	3.0	3.4	3.3	4.1
	指標2:職員、生徒の防災意識が高まった							
	目標3:様々な人権侵害について、学び、差別やいじめを予防する	3.6	3.5	3.8	3.0	3.3	3.2	4.1
	指標3:人権LHRや人権講演会を通して、人権意識が高まった							
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)オープンハイスクールや公開授業、ホームページ等での広報活動を通して、中学生や本校生保護者に向けて本校の魅力を積極的に発信する。 (2)中学生、中学校関係者に配布する「学校案内」を工夫し、本校が育てたい生徒像等がわかりやすく伝わるようにする。 (3)上記(1)・(2)の取り組みにより、令和8年度入試の志願者数(第一志望)の増加につなげる。	(1)今年度は年間で3回行ったが、7月、9月、11月に実施したオープン・ハイスクール(公開授業)には合計で645名の中学生・保護者の方々に参加いただいた。昨年度の795名と比較すると150名の減少となった。今後もあり方を検討し続け、参加者の増加をめざしたい。参加者の満足度を高めるために、よりわかりやすい学校紹介、説明時間の短縮、生徒がより主役となるようなあり方等が今後の課題である。 ホームページについては、各部活動のブログ更新を昨年度より実施し、より最新の情報をお届けすることが可能となった。協力いただいた関係各位に感謝申し上げる。 (2)「学校案内」は、スクールポリシーを明確に打ち出し、本校の特色、取組をわかりやすく理解していただける内容となった。学校案内を、多くの方々に見ていただけるよう、本校ホームページに掲載した。 (3)2月の特色選抜の志願者は15名(募集定員24名)、3月の複数志願選抜志願者数は、3月上旬に判明する。						
目標2	(1)防災避難訓練を年に2回行うとともに、全校集会等を通じて防災教育に取り組む。 (2)外部講師、消防署等関係機関の協力を得て、より効果的な防災教育を行う。 (3)防災マニュアルの内容の更新、見直しを行う。	(1)避難訓練を年に2回行うとともに、12月には全校集会等を通じて防災ジュニアリーダーの活動の紹介もあった。避難訓練は今年度初めて通常授業時間内に実施し、より実践的な訓練となり有意義であった。 (2)消防署等関係機関の協力を得て、訓練を行った。また、避難時に行方不明になる役の生徒を決め事前に打ち合わせを行い、職員が捜索するという実践的な訓練ができた。避難時間を計測することによって、避難のスピードを意識することが出来た。防災講演会に関しては今年度気象予報士の正木さんよりご講演頂いた。毎年様々な内容を実施して、生徒の防災意識の向上を図りたい。						
目標3	(1)インターネットやSNS上における人権侵害や各種ハラスメント等について知り、時代に即した人権教育を実施する。 (2)外部講師等の協力を得て、人権教育講演会やその事前学習を実施し、広い視野からの知識や考え方に触れることによる気づきや学びを提供する。 (3)人権教育講演会のテーマや事前学習について見直し、更新を行う。	(1)事前学習は全学年共通で行ったが、どの学年でも前向きに取り組み、SNSやインターネットを通したいじめなどの人権侵害事案などについて、各々で考えを深め、目標に向けて一定の学びを得ることができた。 (2)本年度の人権教育講演会は、NIT情報技術推進ネットワーク株式会社 取締役の筒崎 眞美様にお話しいただいた。闇バイトや誹謗中傷による人権侵害、個人情報の流出やそれが犯罪に利用される危険性など、身近なスマホやインターネットの利用法について数多くの事例を用いて紹介していただいた。多くの生徒が「自分事」として集中して講演を聞くことができた。講演会後の感想でも多くの生徒が自分の生活に結びつけて今後のスマホの取り扱い方に向き合っていた。						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 教務部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
教務	目標1:ICTを活用した基礎・基本的な内容の定着・充実	3.8	3.7	3.9	3.4	3.4	3.4	4.2
	指標1 プロジェクタやテレビモニターを使った授業やGoogleクラスルーム、iPadを活用して、基礎・基本の内容を身に付けることができた							
	目標2:自ら学ぶ意欲を育てる	3.7	3.7	/	3.2	3.3	/	4.2
	指標2-1(1, 2年):3観点の評価がどのようになされているかが明確である。							
	指標2-1(3年):授業のなかに、主体性を育む取り組みや活動がある。	/	/	3.8	/	/	3.4	3.8
	指標2-2:授業のなかで行われる活動(座学、グループワーク、ペアワーク、アプリの活用など)の目的が明確である。	3.7	3.6	3.8	3.2	3.3	3.4	3.7
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)ICTを用いた学習支援が行えるような研修機会をもうける。 (2)基礎的・基本的内容を個別的・反復的に学習できるようなシステム導入をすすめる。	ICTを活用しての学習支援については、各教科で生徒や教員の実態に応じて進捗がある。研修の余地はまだあるものと考えているが、本校の取り組みは生徒の実態に応じて自然で、かつ先進的なものであると考えている。 基礎的・基本的内容を個別的・反復的に学習できるようなシステム導入については、Google Classroom、ロイロノート、モノグサ、すららを使っての授業の振り返りや予習復習などが導入できており、順調に進んでいる。						
目標2	(1)「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点を明確にし、生徒の自ら学ぶ姿勢を育む授業づくりについて教科横断的に理解を進める。 (2)グループワーク、ペアワークなどの教員の研修機会を利用し、アクティブラーニングの観点をふまえた授業づくりを推進する。	観点別評価のあり方や説明、グループワークなどの取り組み等については教員の自己評価は非常に高い。教員の視点では着実な進捗があるものと考えている。一方で、保護者の評価はそれほど高くない。これは取り組み自体の問題というよりは、広報の問題が大きいのではないかと感じる。生徒の自ら学ぶ姿勢を育む授業づくりや、グループワーク・ペアワークなどアクティブラーニングの観点をふまえた授業づくりの研修機会の提供については今後も継続して取り組んでいく。						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 進路指導部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
進路指導部	目標1:キャリアプランニング能力の育成	3.8	/	/	3.4	/	/	3.8
	指標1-1:総合的な探究の時間や進路ガイダンスを通して、「働くこと」や職業について考えることができた。							
	指標1-2:進路ガイダンスやオープンキャンパス等を利用しながら、将来の職業について考えたり、進学についての情報を手に入れたりすることができた。							
	指標1-3:自分の生き方や将来の職業について主体的に考え、進路目標達成のために情報を収集したり、具体的な取り組みを行ったりできた	/	/	3.8	/	/	3.9	3.7
	目標2:自己理解・自己管理能力の育成	3.7	/	/	3.3	/	/	3.7
	指標2-1:総合的な探究の時間等を活用し、自分の個性や適性について考えることができた。							
	指標2-2:学校行事の振り返り、進路指導室利用等を通じて、自己理解を深め、進路目標達成に向けてどのように行動していくべきかを考えることができた。							
	指標2-3:進路目標達成に向けて自己分析を行い、自分の特長や、今後身に付けるべき力について考えることができた。	/	/	3.8	/	/	3.8	3.6
	目標3:人間関係形成、社会形成能力の育成	3.8	/	/	3.4	/	/	3.8
	指標3-1:総合的な探究の時間等を通じて、他者とのかかわり方について考えることができた。							
	指標3-2:他者の考えや立場を理解し、力を合わせて取り組むことの大切さを学ぶことができた。							
	指標3-3:社会人としてふさわしい言葉遣いやマナーを身に付けることができた。	/	/	3.9	/	/	3.6	3.5
	具体的取組	自己評価						
目標1	(1)職業観育成のためのガイダンスや職業体験を企画立案する。 (2)総合的な探究の時間(1年)や特別活動を活用し、自己の在り方や「働くこと」について考える取り組みを企画運営する。 (3)適時情報を提供するとともに、情報の取捨選択、活用、主体的判断等について支援する。 (4)自分の生き方や将来の職業選択等について、展望を持たないまま卒業する生徒をなくす。	学年の協力を得ながら1・2学年は学期終わりに年3回、3学年は6月に進路ガイダンスを行なった。 1年生は1学期末のガイダンスで、活躍する職業人の話を聴き、夏休みには身近な大人に「職業インタビュー」を実践した。また、2学期に職業人に個別にインタビューする機会を設け、理解を深めた。こうして養った職業観に基づき、総合的な探究の時間に発表活動を行った。 3年生の就職希望生徒に対しては、年度当初より職業観のさらなる深まりを目指し、面談を重ねさまざまな指導を継続して行った。						
目標2	(1)総合的な探究の時間(1年)を活用し、自分の個性を発見したり、適性について考えたりする取り組みを設ける。 (2)進路指導室等における進路相談の機会を通して、今後の可能性の肯定や主体的な行動について支援を行う。 (3)学習や行事の振り返りやリフレクションシート等の取り組みを通して、自己理解を進めていく。	総合的な探究の時間について、学習内容の企画立案を行い、探究担当の部員と協力しカリキュラムの改善を図ったことで、特に1年生においては例年以上に職業観が深まった。リフレクションシートにR80(80字作文)を課すことで、アウトプットを前提とした話の聴き方が定着した。 種々の学力テスト、総合的な探究の時間をはじめ、学年と協力しながら生徒がより良い自己理解を行えるよう支援を行った。 また、進路指導室内の資料の配列に工夫を講じ、生徒の進路指導室利用促進に努めた。 今年度は特に3学年において、進路指導室を利用しての進路相談が多く、学年の働きかけや学年との連携が功を奏した。						
目標3	(1)社会人としてふさわしい言葉遣いやマナーの涵養に、全職員と協力して取り組む。 (2)多様な他者の考えや立場を理解し、協働するトレーニングの場を設ける(1・2年総合的な探究の時間)。	言葉遣いの指導については、数年来、職員に協力を仰いでいるが、顕著な変化が見て取れるとまでは至っていない。 しかしながら、日々の生徒の言動や、熱心に指導に当たってくださっている先生方の姿に、緩やかではあるが、好転の兆しが見られる。 今後も、社会人としての能力育成に向けた継続的な指導が必要であると考えている。 総合的な探究の時間においては、ペアワークおよびグループでの活動や話し合いを通じて、他者理解・協働する力は高まったと考えている。今後総合的な探究の時間のいっそうの充実を図り、学力だけでなく総合的人間力の育成に努めたい。						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 生徒指導部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
生徒指導部	目標1:「生きる力」を育み、自己肯定感の育成を図る。	3.8	3.8	3.8	4.0	3.8	3.6	3.2
	指標1:時間を意識して、遅刻をしないようにし、基本的な生活習慣を確立させることができた							
	目標2:自律型高校生を育み、何事にも挑戦する態度を醸成する。	3.6	3.5	3.8	3.4	3.4	3.4	3.3
	指標2:自ら進んで挑戦する態度が身に付いた							
	目標3:学校・家庭・地域・警察を含む関係機関との連携を図り、生徒の健全育成及び問題行動の未然防止に努める。	3.8	3.7	4.0	3.7	3.8	3.8	3.5
指標3:様々な人々に支えられ、信頼されていることを知り、善悪の判断の意識が高まった								
	具体的取組	自己評価						
目標1	<p>基本的な生活習慣を確立させる</p> <p>(1)時間を守る 遅刻をしない意識を根付かせる。(年6000件以内)</p> <p>(2)環境整備 場の雰囲気大切にさせる。ゴミを出さない、捨てないことを徹底させる。</p> <p>(3)挨拶 学校内外で元氣よく挨拶ができるようにさせる。</p> <p>(4)学習に取り組む雰囲気づくり チャイムでの着席。身だしなみを整える。</p> <p>(5)特別指導件数を減らす。(年10件以内)</p>	<p>(1)遅刻者数 ⇒ 4838件(2月2日時点)減少傾向にある。月5回以上遅刻した生徒については早朝登校をしている。生活習慣を整え、朝から登校できる生徒が昨年度よりも増えてきたように感じる。欠席数も減少傾向にあるので、この流れを来年度以降に繋げていきたい。</p> <p>(2)(3)校内環境については日々の清掃活動に課題はあるが、ある程度の水準できれいな状態は保てているように感じる。挨拶については特定の間関係内ではできるが、外部の方や接点のない人に対してはできる生徒は少ないように感じる。</p> <p>(4)身だしなみについて違反する生徒は例年に比べて少しずつ減ってきている。それに伴って落ち着いて学習できる環境が整ってきたように感じる。</p> <p>(5)特別指導は45件(2月2日時点)。目標数は超えたが、発生した事案に対して適切に対応はできたと考える。未然防止できるよう次年度以降に生かしていきたい。</p>						
目標2	<p>学校行事に主体的に取り組ませ、充実感と自己有用感を積み上げさせる。</p> <p>(1)「生徒会アワー」「憧華祭」「球技大会」等各種学校行事において、多くの生徒にリーダーシップを執らせることで、積極的に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>(2)行事の意義や価値を理解させ、マネージメントの手法を理解させる。また、部活動においてはキャプテン・マネージャーミーティング(CMミーティング)を通じて部活動生徒のあり方や行動を徹底させる。</p> <p>(3)生徒に主体性をもって校則を考えさせ、生徒の意見を取り入れた校則の見直しを実施する。</p>	<p>(1)(2)学校行事、学年行事ともに生徒が主体的に関わることができる場面が年々増えてきている。中学時代にリーダー的役割を経験してきた生徒は少ないが、先輩が引っ張っている姿を見てそれに続く下級生という流れができてきているように感じる。それぞれの立場で役割を理解して、前向きに行動することができる生徒を育てていきたい。来年度以降の行事も、そういった場面をたくさん作れるよう工夫したい。</p> <p>(3)校則の見直しについて、今年度は生徒会がアンケートを作成し、生徒の意見を吸い上げる取り組みを行っている。その取り組みを通じて、生徒達が宝塚東高校のあり方について考え、自治していける集団作りができたらと考える。7月の任期満了までに形にできるようサポートしていきたい。</p>						
目標3	<p>安全・安心な学校づくりに寄与する</p> <p>(1)関係部署と情報を共有する。</p> <p>(2)常に生徒と向き合う姿勢を発信し、相互理解の礎を構築する。</p> <p>(3)いじめに対する未然防止と問題発生時の早期対処を徹底する。</p> <p>(4)よりよい人間関係を形成する力を育む実践・研究を実施する。</p>	<p>(1)(2)それぞれの立場・役割の中で生徒達と真摯に向き合っているように感じる。関係を作り上げるのは簡単ではないが、時間をかけていきたいと考える。その中で情報共有の難しさを感じている。日々様々なことに対応する中で共有すべき情報も多くなり、1つの漏れで対応が遅れるケースもある。週1回の学年会議や拡大生徒指導部会で必要な限り情報を共有し、組織として対応していけるシステムを構築していきたい。</p> <p>(3)(4)いじめを許さないという毅然とした態度を生徒に示しつつ、何かあった場合は速やかに情報を共有し、組織で対応できるようにしていく。(今年度:2件認知)心のサポートの研究で得たデータ等をもとに、よりよい人間関係を築けるよう日々の教育活動を通じてサポートしていきたい。</p>						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 保健部

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員
保健	目標1:保健活動の推進	3.5	3.3	3.5	2.9	3.2	3.0	3.5
	指標1:保健日より等により、健康への意識が高まった							
	目標2:疾病の予防と早期治療、生活習慣の確立	3.6	3.4	3.6	3.1	3.3	3.1	3.3
	指標2:疾病への意識が高まり、規則正しい生活習慣が身についた							
	目標3:教育相談活動の推進と「合理的配慮」の適切な提供	3.5	3.5	3.6	3.3	3.4	3.2	4.1
	指標3:カウンセリング等、相談できる環境が整っていた							
	目標4:安全点検の励行と事故防止	3.7	3.6	3.7	3.4	3.6	3.5	4.0
	指標4:安全に配慮して教育活動がなされていた。							
	具体的取組	自己評価						
目標1	<p>心身の健康について関心を持ち健康意識を高める。</p> <p>(1)学校保健安全計画の立案、実施による健康管理保健教育を徹底する。</p> <p>(2)毎月保健だよりを発行し、健康への意識を高める。</p> <p>(3)生徒保健委員会の自主的な実践活動の促進を図り、保健活動への意識を高める。</p>	<p>(1)学校保健安全計画の立案、実施による健康管理・保健教育を徹底することができた。</p> <p>(2)保健だよりは発行していないが、保健室前の掲示物を時期によって貼り替えたり、保健室入室者への個別保健指導及び生徒健康診断の要精検未受診者への個別保健指導を行い、健康への意識を高めた。</p> <p>(3)生徒健康診断時や体育大会での救護活動等、生徒保健委員会の自主的な実践活動の推進を図り、保健活動への意識を高めた。</p>						
目標2	<p>基本的な生活習慣を確立し、自己管理ができる力を身に付ける。</p> <p>(1)学校医・委嘱医療機関と連携し、健康診断の結果を基に疾病の早期治療、予防を意識づける。</p> <p>(2)性教育講演会や歯科衛生講習会を通じて自身の健康について意識を高める。</p> <p>(3)日常の感染症予防を意識した生活習慣を確立させる。</p> <p>(4)生徒指導部とも連携し、遅刻・欠席の数を10%減少させる。</p>	<p>(1)健康診断の結果をもとに疾病の早期治療、予防を意識づけることができた。</p> <p>(2)各種講演会、講習会を通して、自身の健康について考えさせる機会をもった。</p> <p>(3)日常の感染症予防を意識した生活習慣を意識できるよう、日頃から声掛けをおこなった。</p> <p>(4)数値の達成はできなかったが、今後も目的意識をもって学校生活を送れるよう、継続して指導していきたい。</p>						
目標3	<p>(1)特別支援教育委員会を中心にした相談体制の充実を図る。</p> <p>(2)個人面談やキャンパスカウンセラーによるカウンセリング等を通し問題の早期発見に努める。</p> <p>(3)教職員に対するカウンセリングマインド研修会を実施する。</p> <p>(4)個々の状況に応じた通級による指導の実施、合理的配慮の実施と情報の共有徹底と教職員の研修を行う。</p>	<p>(1)特別支援教育委員会を中心にした相談体制の充実を図ることができた。</p> <p>(2)個人面談やキャンパスカウンセラーによるカウンセリングを通し、問題の早期発見に努めることができた。</p> <p>(3)教職員対象のカウンセリングマインド研修会を行い、生徒理解と対応について学ぶ機会をもった。</p> <p>(4)通級による指導の実施、合理的配慮の実施と情報共有、また通級に関する職員研修を年2回行った。</p>						
目標4	<p>校内救急体制の整備</p> <p>(1)安全点検の励行による学校管理下における事故防止の推進を図る。</p> <p>(2)生徒個々の安全意識を高める指導を行う。</p> <p>(3)教職員に対する救急法の研修会を実施する。</p>	<p>(1)日頃の安全点検により、学校管理下における事故防止を推進できた。</p> <p>(2)生徒個々の安全意識を高める指導を行い、安全に配慮して教育活動を行った。</p> <p>(3)宝塚市消防局より講師を招き、夏休み前に教職員に対する救急法講習会を実施した。</p>						

【目標と取り組み、その成果と課題】

令和7年度 総合健康類型

		1生	2生	3生	1保	2保	3保	職員	
総合健康類型	目標1：1年次 アクティブ・ラーニング、コミュニケーション力の向上	3.4	/	/	2.7	/	/	3.7	
	指標1-1 ボランティア活動に進んで参加した。								
	指標1-2 傾聴、アサーショントレーニングを学び、学校生活の中で取り入れることができた。								
	指標1-3 仲間と協力する大切さを理解することができた。	3.9	/	/	3.8	/	/	3.7	
	目標2：2年次 スポーツ、医療健康等について理解を深め、自ら考え、行動する主体的な学習活動を通じて、地域・社会で貢献できる力を身につける。	/	3.9	/	/	/	3.1	/	3.7
	指標2-1 ボランティア活動に参加し、自らの役割を理解し活動ができた。								
	指標2-2 幼児との交流を通じて、わかりやすく自分の意見や思いを伝えるために工夫することができた。								
	指標2-3 医療、スポーツ、健康の分野から自ら興味を持ったものについてプレゼンテーションを行うことができた。	/	3.8	/	/	/	3.4	/	3.6
	目標3：3年次 スポーツ、医療健康等について理解を深め、自ら考え、行動する主体的な学習活動を通じて、地域・社会で貢献できるリーダーシップを身につける。	/	/	4.0	/	/	/	4.0	3.7
	指標3-1 手話コミュニケーションを通し、聴覚障害について理解を深めることができた。								
	指標3-2 学校行事をすすめる中で、準備や企画、運営に携わり自ら考え行動することができた。								
	指標3-3 医療、スポーツ、健康の分野から自ら興味を持った課題を設定し、卒業論文を発表できた。	/	/	4.1	/	/	/	3.5	3.7
	具体的取組	自己評価							
目標1	特別編成時間割時に特色類型合格者、類型選択後は総合健康類型選択者を対象に特別講義を実施する。 ○救急救命講習会 ○コミュニケーション能力の向上 ○神戸マラソンボランティアに参加 ○チームビルディング	・救急救命法、外部講師によるアサーションコミュニケーション・傾聴・チームビルディングの特別授業を実施。 ・神戸マラソンボランティアに事前学習に参加し、当日のボランティア活動に参加し、自らの役割を理解し活動ができた。 ・良好なコミュニケーションをとり、仲間と協力して取り組むことの大切さを学んだ。							
目標2	医療・スポーツ・健康に関する講義、実習 ・コーチング・ティーチング ・他人の気持ちを理解する心のはたらき ・テーピング入門 ・健康なからだをつくるための体カトレーニング ・障害と障害者のとらえ方 ・筋の仕組みを調べる方法 ・幼児教育について、わかばの森保育園との交流 ・関節運動について ・防災・減災について	・外部講師による医療・スポーツ・健康に関する講義、実習の特別授業を実施し、講義ごとの振り返りを実施し、理解を深めた。 ・柔道整復師の仕事・身体のしくみ・競技力向上と食事・障害と障害者について・自主的に生きる・スポーツの仕事 ・防災・減災について、避難所運営ゲーム ・臓器移植・幼児に大切な遊び・幼児教育について・保育園との交流実習・特別支援学校との交流予定 ・医療、スポーツ、健康の分野から自ら興味を持ったものについてプレゼン発表を実施。 ・神戸マラソンボランティアに参加し、自らの役割を理解し活動ができた。 ・筋肉と骨格筋について、名称と働きについて理解を深めた。							
目標3	医療・スポーツ・健康に関する講義、実習 ・柔道整復師の仕事について ・姿勢は人を劇的に変える ・対人援助職について ・防災・減災 ・手話講座 ・地域交流 ・卒業論文	・外部講師による医療・スポーツ・健康に関する講義、実習の特別授業を実施し、講義ごとの振り返りを実施した。 ・柔道整復師の仕事について・姿勢は人を劇的に変える・対人援助職について・防災・減災についての特別授業を実施し、講義ごとの振り返りを行い理解を深めた。 ・宝塚市役所 障(がい)福祉課 派遣講師による手話講座を実施し、手話コミュニケーションを通し、聴覚障害について理解を深めることができた。 ・医療・スポーツ・健康に関する分野から自ら興味を持った課題を設定し、卒業論文を作成し、要旨について発表することができた。 ・筋肉と骨格筋、さらに人体の各器官と構造について、名称と働きについて理解を深めた。							